

令和3年度 日本庭園学会 関西大会プログラム

【日時】2021年11月6日(土) 10:00～17:30(予定)

【概要】公開シンポジウム・研究発表会・オンライン懇親会

プログラム

オープニング (9:45～10:10)

- 9:45～10:00 受付 (Zoom 利用に際しての、入室者のチェック及び許可作業)
10:00～10:10 開会あいさつ 会長 大澤伸啓

公開シンポジウム (10:10～12:10)

1992年(平成4)に産声をあげた日本庭園学会 (Academic Society of Japanese Garden) は、2022年(令和4)に創立30周年を迎えます。日本庭園学会では新企画オンライン・セミナー(リレートーク)「庭と園に学ぶ～日本庭園・学のこれまでとこれから」を毎週月曜日に開催することとしました。

今回の公開シンポジウムは、このプレ・イベントとして、これまで関西地区で活躍してこられた会員をパネラーとして、様々な実践智(現場の肉声)と思考智(研究の成果)について語り合い、日本庭園学のこれまでとこれからを展望していきます。

- 10:10 趣旨説明: 関西支部長 仲隆裕
- 10:15～10:30 話題提供1: 日本の庭 これらにつなぐ意味と形
岡田憲久(名古屋造形大学名誉教授、設計集団タブラ・ラサ主宰)
- 10:30～10:45 話題提供2: 素材(石)から見た日本庭園の魅力とこれから
張平星(東京農業大学地域環境科学部造園科学科)
- 10:45～11:10 ディスカッション1 日本庭園の魅力を語る
- 11:10～11:25 話題提供3: 「庭園考古学」の視点
杉本 宏(京都芸術大学歴史遺産学科)
- 11:25～11:40 話題提供4: 学の厳密性と社会に開かれた庭の研究
今江秀史(京都市元離宮二条城事務所)
- 11:40～12:05 ディスカッション2 これからの日本庭園学を探る
- 12:05～12:10 コメント: 大澤伸啓(日本庭園学会会長)
- 12:10 閉 会
休 憩

研究発表会

- 13:35 ~ 13:55 発表1
森 泰規 (株式会社博報堂ブランド・イノベーションデザイン局)
題 名：今後の社会における日本庭園への旅行者ニーズに対応するために
発表概要：「日本庭園」にかかわる外国人旅行者ニーズ把握が、コロナ以降の社会を見据えて協議されている。主として国土交通省を中心に行われているものについて、現有のケースをとらえ、それらに対する発展的な視座について学会員に紹介する。
- 13:55 ~ 14:15 発表2
高橋知奈津 (奈良文化財研究所)
題 名：東近江市金堂地区、近江商人本宅の庭園
発表概要：東近江市近代和風建築等総合調査の一環で令和2年度に実施した近江商人本宅の庭園について、外村市郎兵衛住宅庭園および外村与左衛門住宅庭園の調査成果を報告する。
- 14:20 ~ 14:40 発表3
今江秀史 (京都市元離宮二条城事務所)
題 名：廣誠院の書院南側の障子に写し出される水面の影絵の仕組み
発表概要：廣誠院は、京都市左京区一之舟入町に所在する臨済宗の単立寺院である。廣誠院の書院の東と南側には、高瀬川から引いた水による流路と園池が築かれている。この書院の南面にはめられた障子には、ゆらぐ水面の影が写し出されることがある。その光景は、自然の水の動きを題材とした映像作品を思わせる劇的なものである。本研究では、廣誠院の書院と園池が織りなす影絵の仕組みについて分析を行い、その表現が偶然あるいは作為であるかについて解明する。
- 14:40 ~ 15:00 発表4
仲 隆裕 (京都芸術大学)
題 名：和中庵の保存と活用の試み
発表概要：京都市左京区鹿ヶ谷に位置する和中庵は、大正初期に近江商人である藤井彦四郎が造営した邸宅である。第二次世界大戦後はノートルダム修道会の修道院となっていたが、近年ノートルダム学院中学高等学校の所有管理となり、老朽化した本館は解体されたが洋館と客殿が修復されている。敷地内を桜谷川が流れ、その右岸斜面を生かした庭園は、滝や流れを主体としているが、給水路が途絶えておりその水系は判然としない。本報告では、庭園の水系調査の途中経過とともに、和中庵の建物・庭園の特徴を活かした活用の試みとして令和元・2年に開催した芸術展について報告する。
- 15:00 閉会あいさつ 日本庭園学会長 大澤伸啓
- 15:20 ~ 16:30 オンライン懇親会